

(証券コード3286)

平成27年9月14日

株 主 各 位

福岡市博多区博多駅南五丁目15番18号  
トラストホールディングス株式会社  
代表取締役社長 喜久田 匡宏

## 第2期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、当社第2期定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、平成27年9月28日（月曜日）午後5時30分までに到着するようご返送をお願い申しあげます。

敬 具

記

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1. 日 時          | 平成27年9月29日（火曜日）午前10時   |
| 2. 場 所          | 福岡市博多区下川端町3番2号<br>ホテルオークラ福岡 3階 「メイフェア」<br>(末尾の会場ご案内図をご参照ください)  |
| 3. 目的事項<br>報告事項 | 1. 第2期（平成26年7月1日から平成27年6月30日まで）<br>事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会<br>の連結計算書類監査結果報告の件<br>2. 第2期（平成26年7月1日から平成27年6月30日まで）<br>計算書類報告の件 |

### 決 議 事 項

- |       |           |
|-------|-----------|
| 第1号議案 | 剰余金の処分の件  |
| 第2号議案 | 定款一部変更の件  |
| 第3号議案 | 取締役5名選任の件 |

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

◎株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.trust-hd.co.jp>）に掲載させていただきます。

(添付書類)

## 事業報告

(平成26年7月1日から  
平成27年6月30日まで)

### 1. 企業集団の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が一服し、政府・日銀による経済政策や大胆な金融政策などを背景として、企業業績の向上や雇用環境の改善など、着実に景気回復の兆しが見られてきております。

このような状況の中、当社グループは駐車場事業におきましては、前連結会計年度において一時的に悪化した収益の改善に積極的に取り組んでまいりました。不動産等事業におきましては、新築マンションの販売に注力いたしましたが、競合物件の販売開始等の影響もあり、当初の計画を下回る販売実績となりました。ウォーター事業におきましては、認知度向上、固定客確保のため、先行投資として広告宣伝費等を積極的に投入してまいりましたが、一部商品の販売開始の遅れもあり、当初計画を下回る販売実績となりました。

以上の結果、売上高は12,584,416千円(前期比1.7%増)、営業損失は15,415千円(前期は687,827千円の営業利益)、経常損失は225,351千円(前期は534,315千円の経常利益)、当期純損失は246,601千円(前期は163,105千円の当期純利益)となりました。

事業別の業績については以下のとおりであります。

#### <駐車場事業>

主に前連結会計年度にオープンした駐車場の早期収益化を図ることを中心とした既存駐車場の活性化に注力することに加え、不採算駐車場の地代交渉、閉鎖等を徹底的に実施、前連結会計年度における営業利益が91,079千円と低迷した駐車場事業の大幅な収益改善を図ってまいりました。

以上の結果、売上高は6,780,133千円（前期比13.2%増）、営業利益は455,536千円（同400.2%増）となりました。

なお、当連結会計年度末の駐車場数は762ヶ所（前期より増減なし）、車室数は29,195車室（前期より1,145車室増）となっております。

#### <不動産等事業>

マンション、戸建住宅等の販売部門につきましては、新築マンション3棟「トラスト前原中央ネクサージュ（福岡県糸島市、72戸）」、「トラストネクサス小野田駅前（山口県山陽小野田市、36戸）」、「トラストネクサス長崎オーシャンコート（長崎県長崎市、48戸）」が竣工いたしました。

竣工数は前連結会計年度の254戸より156戸へと減少いたしました。マンション136戸、戸建8戸の引渡しを実施した結果、売上高は3,437,325千円、営業利益は217,509千円となりました。

また、不動産特定共同事業法に基づく駐車場小口化商品であります「トラストパートナーズ」の販売部門につきましては、広告宣伝費等を積極的に投入し、「トラストパートナーズ賑町」を完売、「トラストパートナーズ第5号（札幌市、北九州市、福岡市、鹿児島市の4物件をパッケージ化、現在第2期販売中）」の第1期販売を終了いたしました結果、売上高は290,857千円、営業損失は222,337千円となりました。

以上の結果、不動産等事業の売上高は3,728,183千円（前期比37.4%減）、営業損失は4,827千円（前期は721,583千円の営業利益）となりました。

#### <ウォーター事業>

水素水の販売を中心として行うウォーター事業におきましては、前連結会計年度より段階的に事業を開始いたしました。固定客を確保し、今後の当社グループの収益事業の一つとして大きく拡大、発展させるための先行投資として広告宣伝費等を積極的に投入いたしました。広告宣伝効果もあり、売上を伸ばしてまいりましたが、一部商品の販売開始時期が当初の予定より遅れたため、当初計画を下回る実績となりました。

以上の結果、売上高は1,190,234千円（前期比728.9%増）、営業損失は338,850千円（前期は57,467千円の営業損失）となりました。

#### <アミューズメント事業>

アミューズメント事業につきましては、前連結会計年度より運営を開始いたしました温浴施設「那珂川清滝（福岡県筑紫郡那珂川町）」及びゴルフ練習場「カスタネット倶楽部水巻（福岡県遠賀郡水巻町）」ともに業績は堅調に推移いたしました。また、平成27年4月には2ヶ所目の温浴施設として「和楽の湯 下関せいりゅう（山口県下関市）」の運営を開始いたしました。

以上の結果、売上高は626,884千円（前期比370.7%増）、営業損失は75,962千円（前期は29,746千円の営業損失）となりました。

#### <その他事業>

その他事業につきましては、広告事業、メディカルサービス事業等の新規事業は概ね堅調に推移いたしました。警備事業におきましても、駐車場警備を中心に、契約を積み重ねてまいりました。

以上の結果、売上高は258,981千円（前期比73.7%増）、営業損失は12,500千円（前期は36,405千円の営業損失）となりました。

## (2) 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資の総額はリース資産を含み3,262,163千円であり、その主なものは、駐車場事業における土地（福岡市中央区）の取得1,476,398千円、精算機等の駐車場設備138,867千円、駐車場の基幹システム開発費用124,993千円、ウォーター事業における水素水製造設備135,846千円、アミューズメント事業における温浴施設「和楽の湯 下関せいりゅう（山口県下関市）」建築費用598,409千円、その他、メディカルサービス事業における賃貸用不動産「介護老人保健施設みやこ（福岡県北九州市）」の増床新築工事費用478,450千円、RV事業における秋田工場（秋田県横手市）土地建物等の取得139,942千円であります。

## (3) 資金調達の状況

当連結会計年度は、金融機関より駐車場事業における土地（福岡市中央区）の取得資金1,450,000千円、アミューズメント事業における温浴施設「和楽の湯 下関せいりゅう（山口県下関市）」建築資金600,000千円、その他、メディカルサービス事業における賃貸用不動産「介護老人保健施設みやこ（福岡県北九州市）」の増床新築工事資金及び既存の土地建物取得資金710,000千円の借換を含め総額1,215,000千円を長期借入金として資金調達を行い、トラストパートナーズ第5号商品の販売に伴い、対象不動産に既存する長期借入金4,097,507千円を一括返済するための資金として、一時的な資金を含め4,370,000千円、その他、メディカルサービス事業における建築途中の賃貸用不動産「福岡信和病院（福岡市南区）」建築資金391,000千円を短期借入金として資金調達を行っております。

#### (4) 重要な企業再編等の状況

- ① 平成26年7月1日付で、当社はグループの経理・総務・財務・労務業務等の管理部門業務を集約（シェアードサービス事業）する目的として、株式会社ジーエートラストを設立し、同社を連結子会社といたしました。
- ② 平成27年4月1日付で、当社はRV車販売を営む株式会社ニシノコーポレーション（平成27年4月1日付で株式会社RVトラストへ商号変更）の全株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。

#### (5) 財産及び損益の状況の推移

企業集団の財産及び損益の状況

(単位：千円)

| 区 分                            | 第19期<br>(平成24年6月期) | 第20期<br>(平成25年6月期) | 第1期<br>(平成26年6月期) | 第2期<br>(当連結会計年度)<br>(平成27年6月期) |
|--------------------------------|--------------------|--------------------|-------------------|--------------------------------|
| 売 上 高                          | 8,588,967          | 10,326,263         | 12,370,023        | 12,584,416                     |
| 経 常 利 益 又 は<br>経 常 損 失 (△)     | 482,146            | 620,823            | 534,315           | △225,351                       |
| 当 期 純 利 益 又 は<br>当 期 純 損 失 (△) | 219,560            | 315,336            | 163,105           | △246,601                       |
| 1株当たり当期純利益又は<br>1株当たり当期純損失(△)  | 49円17銭             | 66円74銭             | 34円50銭            | △52円08銭                        |
| 総 資 産                          | 8,084,927          | 9,304,242          | 12,853,937        | 17,134,796                     |
| 純 資 産                          | 819,780            | 1,071,419          | 1,156,311         | 833,793                        |

- (注) 1. 第1期連結計算書類は、単独株式移転により完全子会社となったトラストパーク株式会社の連結計算書類を引継いで作成しております。また、第20期（平成25年6月期）以前の数値については、トラストパーク株式会社の数値を記載しております。
2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失は、自己株式を控除した期中平均株式数に基づいて算出しております。また、株式付与E S O P信託口が所有する当社株式は連結貸借対照表において自己株式に計上しているため、期中平均株式数から控除しております。
3. 当社は、平成25年7月1日に株式移転（1：100）により設立された会社であるため、トラストパーク株式会社第19期、第20期の1株当たり当期純利益は、第19期期首に株式分割が行われたものとして算出しております。

## (6) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況

| 会 社 名              | 資 本 金     | 当 社 の<br>議 決 権 比 率 | 主 な 事 業 内 容                   |
|--------------------|-----------|--------------------|-------------------------------|
| トラストパーク株式会社        | 421,352千円 | 100%               | 駐車場事業                         |
| トラストネットワーク株式会社     | 50,000千円  | 100%               | 不動産等事業、ウォーター事業、<br>アミューズメント事業 |
| トラストパトロール株式会社      | 30,000千円  | 100%               | 総合警備業                         |
| トラストメディカルサポート株式会社  | 40,000千円  | 100%               | メディカルサービス事業                   |
| トラストビジョン株式会社       | 12,000千円  | 100%               | 広告事業                          |
| トラストアセットパートナーズ株式会社 | 20,000千円  | 100%               | 不動産特定共同事業商品販売                 |
| 株式会社ジーエートラスト       | 10,000千円  | 100%               | シェアードサービス事業                   |
| 株式会社R Vトラスト        | 25,000千円  | 100%               | キャンピングカーの製造及び販売等              |

- (注) 1. 平成26年7月1日に株式会社ジーエートラストを設立いたしました。
2. 平成27年2月1日付で株式会社SRPはトラストビジョン株式会社へ商号変更いたしました。
3. 平成27年4月1日付でタウンパトロール株式会社はトラストパトロール株式会社へ商号変更いたしました。
4. 平成27年4月1日付で株式会社ニシノコーポレーションの全株式を取得し、同社を完全子会社とし、同日付で同社は株式会社RVトラストへ商号変更いたしました。
5. その他、株式会社グランシップ及びメディカルアライアンス合同会社の2社が子会社として存在します。
6. 事業年度末日における特定完全子会社の状況
- ・特定完全子会社の名称及び住所  
トラストパーク株式会社 福岡市博多区博多駅南五丁目15番18号
  - ・当事業年度末日における特定完全子会社の株式の帳簿価額 953,688千円
  - ・当事業年度末日における当社の総資産額 3,982,614千円

## (7) 対処すべき課題

主要事業である駐車場事業において、既存駐車場の活性化と新規駐車場の開発強化を図ること、及び不動産等事業において、建築コスト上昇等の影響による顧客の購買力低下の懸念がある中、収益力向上を図ることが、当社グループにとって当面の対処すべき課題であると認識しております。

### ① 既存駐車場の活性化

各駐車場が最適な収益を確保するためには、認知度・稼働率を高めることが重要であると考えております。そのために、今後も安定収益確保のための月極獲得強化、料金設定の工夫、看板の改善、各種キャンペーン等をタイムリーに行くと同時に、駐車場美化、メンテナンスの充実等を常に実践しユーザーの信頼を高めることで、各駐車場の持てるポテンシャルを最大限に引き出し収益の向上に努めてまいります。

### ② 新規駐車場の開発

当社グループの将来の収益基盤になるということのみならず、慢性的な駐車場不足という社会問題の解決に貢献するという観点からも、当社グループにとって最重要課題の一つと考えております。

そのために、情報収集力・提案能力等の更なる強化を図るとともに、駐車場の運営力・サービス力を高めることにより土地建物・駐車場オーナー等の信頼の維持向上に引き続き努めてまいります。

### ③ マンションの販売強化

エリアの需給動向を的確に見極め、顧客の多様化、高度化する価値観・ニーズに対応できるマンション開発を行ってまいります。また、マンションの販売に当たっては販売代理会社と連携し、開発したマンションの早期完売を目指すべく営業活動を行ってまいります。

当社グループは、これらの営業課題に取り組むにあたり、今後も優秀な人材の確保・育成を行い、社員の定着化・教育の充実を引き続き図ってまいります。また、企業倫理の徹底とコンプライアンス経営の確立になお一層努力してまいります。



## (8) 主要な事業内容（平成27年6月30日現在）

当社グループは、当社及び連結子会社10社で構成されており、連結子会社であるトラストパーク株式会社及び株式会社グランシップにおいて駐車場の運営・管理を行う駐車場事業のほか、トラストパーク株式会社、トラストネットワーク株式会社及びトラストアセットパートナーズ株式会社において不動産等事業を行っております。

さらに、トラストネットワーク株式会社において、水素水の製造・販売を行うウォーター事業のほか、温浴施設及びゴルフ練習場の運営を行うアミューズメント事業を行っております。

各事業の内容は次のとおりであります。

### <駐車場事業>

当社グループの主力事業である駐車場事業は、「遊休地の有効利用」と「既存駐車場の活性化」を事業コンセプトに、遊休地を駐車場として有効活用し、または低収益に悩む駐車場を運営面、収益面においてサポートし改善することで、都市基盤として開発または活性化させ、社会的に有効活用することを目的としております。

### <不動産等事業>

不動産等事業は、「人へ、街へ、次世代へ末永く愛されるマンション」をコンセプトに、ファミリーマンションの分譲事業を中心とした住宅の企画、開発、販売業務等を行っております。

### <ウォーター事業>

ウォーター事業は、「健康的な明るい未来をサポートする」をコンセプトに、信頼のおける高濃度水素水の製造・販売を行っております。

### <アミューズメント事業>

アミューズメント事業は、温浴施設「那珂川清滝（福岡県筑紫郡那珂川町）」、「和楽の湯 下関せりゅう（山口県下関市）」及びゴルフ練習場「カスタネット倶楽部水巻（福岡県遠賀郡水巻町）」の運営を行っており、お客様の健康を支援するべく人々が和み楽しむ空間を提供しております。

### <その他事業>

トラストビジョン株式会社においては、大型ビジョンの運営、テレビ番組の運営及び広告事業を行っております。また、トラストパトロール株式会社においては、駐車場事業に付随して発生する機械警備及び交通誘導警備等の警備事業を行っております。さらに、トラストメディカルサポート株式会社及びメディカルアライアンス合同会社においては、医療機関への不動産賃貸や各種コンサルティング業務を行っており、安全・安心な「医療設備」を提供しております。

また、キャンピングカーの製造販売を行う株式会社RVトラストの全株式を新たに取得し、同社を子会社化しております。

### (9) 主要な事業所（平成27年6月30日現在）

#### ① 当社

本 社 福岡市博多区

#### ② 子会社等

トラストパーク株式会社 (本社：福岡市博多区)

トラストネットワーク株式会社 (本社：福岡市博多区)

株式会社グランシップ (本社：福岡市博多区)

トラストパトロール株式会社 (本社：福岡市博多区)

トラストメディカルサポート株式会社 (本社：福岡市博多区)

メディカルアライアンス合同会社 (本社：福岡市博多区)

トラストビジョン株式会社 (本社：福岡市博多区)

トラストアセットパートナーズ株式会社 (本社：福岡市博多区)

株式会社ジーエートラスト (本社：福岡市博多区)

株式会社RVトラスト (本社：福岡市博多区)

## (10) 使用人の状況（平成27年6月30日現在）

### 企業集団の使用人の状況

| 事業区分       | 使用人数      | 前連結会計年度末比増減 |
|------------|-----------|-------------|
| 駐車場事業      | 110（369）名 | +2（+2）名     |
| 不動産等事業     | 13（1）名    | +1（+1）名     |
| ウォーター事業    | 3（-）名     | +2（-）名      |
| アミューズメント事業 | 27（63）名   | +11（+18）名   |
| その他事業      | 38（27）名   | +26（+11）名   |
| 全社（共通）     | 22（5）名    | △8（-）名      |
| 合計         | 213（465）名 | +34（+32）名   |

- (注) 1. 使用人数は就業員数であり、嘱託社員及び臨時従業員（パート及びアルバイト）は（ ）内に年間の平均人員（月間170時間換算）を外数で記載しております。
2. 上記使用人数には、当社グループ外への出向者1名を含んでおりません。
3. 全社（共通）として記載されている使用人数は、特定の事業に区分できない管理部門に所属しているものであります。
4. 使用人数増加の主な理由は、業容拡大に対応するための新卒採用及び事業譲受等による人員の増加であります。

## (11) 主要な借入先の状況（平成27年6月30日現在）

| 借入先          | 借入金残高       |
|--------------|-------------|
| 株式会社西日本シティ銀行 | 5,327,253千円 |
| 株式会社福岡銀行     | 2,673,258千円 |
| 株式会社親和銀行     | 1,016,250千円 |
| 株式会社北九州銀行    | 792,424千円   |
| 株式会社みずほ銀行    | 692,494千円   |
| 株式会社佐賀銀行     | 576,840千円   |

- (注) 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しており、その借入極度額合計は26億円であります。

## (12) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 株式の状況（平成27年6月30日現在）

- (1) 発行可能株式総数 15,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 5,177,500株（自己株式85株を含む）  
 ※ストックオプションの行使により、発行済株式の総数は17,500株増加しております。  
 (3) 単元株式数 100株  
 (4) 株主数 1,587名  
 (5) 大株主（上位10名）

| 株 主 名                                         | 持 株 数 (株) | 持 株 比 率 (%) |
|-----------------------------------------------|-----------|-------------|
| 株 式 会 社 渡 神                                   | 1,601,900 | 30.94       |
| 渡 邊 靖 司                                       | 516,000   | 9.97        |
| ト ラ ス ト パ ー ク 株 式 会 社                         | 225,000   | 4.35        |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社<br>(株式付与E S O P信託口・75551口) | 201,100   | 3.88        |
| 安 井 利 男                                       | 140,300   | 2.71        |
| 株 式 会 社 テ ィ ー ケ ー ピ ー                         | 124,500   | 2.40        |
| 株 式 会 社 S B I 証 券                             | 90,900    | 1.76        |
| 山 中 孝 一                                       | 90,000    | 1.74        |
| 藤 原 香 代 子                                     | 60,200    | 1.16        |
| 楽 天 証 券 株 式 会 社                               | 60,000    | 1.16        |

- (注) 1. 持株比率は自己株式（85株）を控除して計算しております。  
 2. 相互保有株主であるトラストパーク株式会社が所有する当社株式225,000株は自己株式として控除しておりません。  
 3. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（株式付与E S O P信託口・75551口）が所有する当社株式201,100株は自己株式として控除しておりません。

### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

- (1) 当事業年度の末日に当社役員が保有している新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に使用人等に交付した新株予約権の状況  
該当事項はありません。
- (3) その他新株予約権等に関する重要な事項  
該当事項はありません。

## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役及び監査役の状況 (平成27年6月30日現在)

| 会社における地位  | 氏 名     | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                                                                                                                                                                                              |
|-----------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役会長   | 渡 邊 靖 司 | トラストパーク(株) 代表取締役会長<br>トラストネットワーク(株) 代表取締役会長<br>(株)グランシップ 代表取締役社長<br>トラストパトロール(株) 代表取締役社長<br>トラストメディカルサポート(株) 代表取締役社長<br>トラストビジョン(株) 代表取締役社長<br>トラストアセットパートナーズ(株) 代表取締役社長<br>(株)ジーエートラスト 代表取締役社長<br>(株)RVトラスト 代表取締役社長 |
| 代表取締役社長   | 喜久田 匡 宏 | トラストメディカルサポート(株) 取締役<br>トラストビジョン(株) 取締役<br>トラストアセットパートナーズ(株) 取締役                                                                                                                                                     |
| 専 務 取 締 役 | 矢羽田 弘   | トラストネットワーク(株) 取締役<br>トラストメディカルサポート(株) 取締役<br>トラストビジョン(株) 取締役<br>トラストアセットパートナーズ(株) 取締役<br>(株)ジーエートラスト 取締役                                                                                                             |
| 取 締 役     | 宮 石 啓 司 | (株)RVトラスト 取締役                                                                                                                                                                                                        |
| 常 勤 監 査 役 | 市 原 一 也 |                                                                                                                                                                                                                      |
| 監 査 役     | 江 口 秀 人 | 監査法人有明代表社員 公認会計士                                                                                                                                                                                                     |
| 監 査 役     | 梁 井 純 輔 |                                                                                                                                                                                                                      |

- (注) 1. 市原一也氏は、その他子会社7社の社外監査役を兼職しております。
2. 江口秀人氏は、その他子会社1社の社外監査役を兼職しております。
3. 監査役市原一也氏及び江口秀人氏並びに梁井純輔氏は、社外監査役であります。
4. 監査役江口秀人氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当社は、監査役市原一也氏を東京証券取引所及び福岡証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、両取引所に届け出ております。
6. その他
- 渡邊靖司氏は、平成27年7月1日付で当社連結子会社であるトラストアセットパートナーズ株式会社、株式会社ジーエートラスト、株式会社グランシップの代表取締役会長に就任しております。
  - 喜久田匡宏氏は、平成27年7月1日付で当社連結子会社であるトラストアセットパートナーズ株式会社の取締役を辞任により退任しております。

- ・矢羽田弘氏は、平成27年7月1日付で当社連結子会社である株式会社ジーエートラストの代表取締役社長に就任し、同日付でトラスタアセットパートナーズ株式会社の取締役を辞任により退任しております。
- ・宮石啓司氏は、平成27年6月24日付で当社連結子会社である株式会社R V トラストの取締役に就任し、平成27年6月30日付でトラストパーク株式会社の取締役を辞任により退任しております。

## (2) 取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分   | 支 給 人 員 | 報 酬 等 の 額 |
|-------|---------|-----------|
| 取 締 役 | 4名      | 109,550千円 |
| 監 査 役 | 3名      | 7,050千円   |
| 合 計   | 7名      | 116,600千円 |

- (注) 1. 上記のうち社外役員(社外監査役)に対する報酬等の総額は3名7,050千円であります。
2. 平成26年7月1日付で辞任により退任した取締役原康則氏、山川修氏、早川雄二氏の3名は、無支給であるため支給人員には含めておりません。
3. 平成26年9月25日開催の定時株主総会において、取締役の報酬額を年額300,000千円以内、監査役の報酬額を年額20,000千円以内とそれぞれ決議いただいております。

## (3) 社外役員に関する事項

- ① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係  
 監査役江口秀人氏は、監査法人有明の代表社員であります。当社と監査法人有明との間には特別な関係はありません。

### ② 当事業年度における主な活動状況

| 区 分   | 氏 名     | 主 な 活 動 状 況                                                                    |
|-------|---------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 監 査 役 | 市 原 一 也 | 当事業年度に開催された取締役会29回のうち29回、監査役会12回のうち12回に出席いたしました。監査役としての経験と見識から適宜発言を行っております。    |
| 監 査 役 | 江 口 秀 人 | 当事業年度に開催された取締役会29回のうち16回、監査役会12回のうち10回に出席いたしました。主に公認会計士としての専門的見地からの発言を行っております。 |
| 監 査 役 | 梁 井 純 輔 | 当事業年度に開催された取締役会29回のうち18回、監査役会12回のうち12回に出席いたしました。監査役としての経験と見識から適宜発言を行っております。    |

③ 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

④ 社外取締役を置くことが相当でない理由

当社は当事業年度末において社外取締役を置いておりませんが、この度の会社法改正及びコーポレートガバナンス・コード制定を踏まえ、社外取締役に求める役割を十分に検討し、本年定時株主総会において社外取締役を含む取締役選任議案を提案しております。



## 5. 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の名称

三優監査法人

### (2) 会計監査人の報酬等の額

|                                     |          |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 24,000千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 24,000千円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、職務執行状況、報酬見積りの算定根拠等について検討した結果、適切であると判断したため、会計監査人の報酬等の額について同意しております。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任または不再任に関する議案を決定し、取締役会は、監査役会の決定に基づき、当該議案を株主総会に提出します。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### (5) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人三優監査法人は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。

## 6. 業務の適正を確保するための体制

### (1) 取締役及び従業員の職務執行が法令、定款に適合することを確保するための体制

- ① 代表取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、全社的なコンプライアンス体制の整備、問題点の把握に努める。
- ② 内部監査室にて、内部監査規程に基づき内部監査を実施し、全ての業務が法令、定款、社内諸規程に適合しているかを公正に監査する。
- ③ 監査役は取締役の職務の執行が法令、定款に適合しているか、コンプライアンス体制が適正に運営されているかを監視・監督する。
- ④ 法令違反等を未然に防止し、会社の自浄機能を働かせることを目的に、社内通報制度を制定し、当社内の通報窓口のほか外部の弁護士事務所にも通報窓口を設置し、運用する。なお、会社は通報者に対して不利益な取扱いを行わない。

### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

「文書管理規程」に基づき、取締役会をはじめとする重要会議の意思決定に係る記録や、取締役の職務執行に係る情報を保存し、必要に応じ閲覧できる状態とする。

### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 管理部がリスク管理を統括する部門として、リスク管理規程に基づき、各種のリスクについての評価・分析を実施し、必要に応じて顧問弁護士等に照会し、取締役会において審議を行うものとする。
- ② 不測の事態が発生した場合には、代表取締役を本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士等を含めて迅速な対応を行い、損害の拡大を防止する体制を整える。

### (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 毎月1回の定時取締役会を開催し、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の決定を迅速に行うものとする。
- ② 社内の指揮・命令系統の明確化及び責任体制の確立を図るため、業務分掌及び職務権限に関する諸規程を制定する。

**(5) 当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制**

- ① 当社のコンプライアンス体制、リスク管理体制をグループ会社全体に適用するものとし、「関係会社管理規程」に基づき、子会社への指導を行う。
- ② 当社の内部監査室は、定期的の子会社の内部監査を実施する。
- ③ 子会社は監査役に対し、リスク情報を含めた業務執行状況の報告を行う。

**(6) 監査役が職務を補助すべき従業員及び当該従業員の当社の取締役からの独立性に関する事項**

監査役が、その職務を補助する従業員を求めた場合には、監査役を補助する従業員を置き、当該従業員は、取締役からの指揮命令は受けず、独立して業務を行うものとする。なお、当該従業員の人事に関する事項については、監査役との協議により定めるものとする。

**(7) 取締役及び従業員が監査役に報告するための体制**

- ① 監査役は、取締役会のほか重要な会議に出席し取締役及び従業員に対し、業務執行状況等の報告を求めることができるものとする。また、取締役及び従業員は、リスク管理上の重要な情報、法令等により報告が必要な情報等については、監査役に対し速やかに報告を行うものとする。
- ② 前項の報告をした取締役及び従業員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨周知する。

**(8) 監査役職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用または償還の処理に係る方針に関する事項**

監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還等の請求をした場合には、当該請求に係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要ではないと認められる場合を除き、速やかに当該費用または債務を負担する。

(9) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ① 監査役は定期的に代表取締役と意見交換を行うものとする。
- ② 監査役と会計監査人が相互に連携して、効率的な監査ができる体制を確保する。

(10) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

- ① 反社会的勢力の排除については、基本的な考えを「トラストグループ行動規範」に明記し、反社会的勢力及び団体に対しては、毅然たる態度で臨み、一切の関係を遮断するという強い意志のもと、全取締役及び従業員が業務の遂行にあたる。
- ② 社内に反社会的勢力に対する対応統括部署を設け、警察等関連機関との連携を図るものとする。

(11) 内部統制システムの運用状況

平成27年5月1日から6月30日の期間において、コンプライアンス委員会を1回開催したほか、取締役会を4回開催しております。また、コンプライアンス相談窓口について、周知及び対応を継続しております。

---

本事業報告に記載の金額及び株式数は、表示単位未満を切り捨てております。また、比率は表示単位未満を四捨五入しております。

# 連結貸借対照表

(平成27年6月30日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額               | 科 目             | 金 額               |
|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                   | <b>(負債の部)</b>   |                   |
| <b>流動資産</b>     | <b>10,210,204</b> | <b>流動負債</b>     | <b>11,019,448</b> |
| 現金及び預金          | 1,689,376         | 買掛金             | 677,390           |
| 受取手形及び売掛金       | 464,370           | 短期借入金           | 6,667,000         |
| 販売用不動産          | 5,565,507         | 1年内返済予定の長期借入金   | 1,030,212         |
| 仕掛販売用不動産        | 1,567,672         | リース債務           | 190,323           |
| 商品及び製品          | 64,435            | 未払法人税等          | 51,614            |
| 原材料及び貯蔵品        | 43,639            | 前受金             | 1,562,624         |
| 繰延税金資産          | 151,202           | ポイント引当金         | 17,732            |
| その他             | 671,435           | 返品調整引当金         | 1,281             |
| 貸倒引当金           | △7,435            | 資産除去債務          | 3,876             |
|                 |                   | その他             | 817,393           |
| <b>固定資産</b>     | <b>6,924,591</b>  | <b>固定負債</b>     | <b>5,281,555</b>  |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>5,245,903</b>  | 長期借入金           | 4,536,085         |
| 建物及び構築物         | 2,038,703         | リース債務           | 393,618           |
| 機械装置及び運搬具       | 140,190           | 繰延税金負債          | 5,689             |
| 土地              | 1,970,220         | 株式給付引当金         | 6,502             |
| リース資産           | 484,366           | 退職給付に係る負債       | 36,520            |
| 建設仮勘定           | 501,374           | 資産除去債務          | 76,567            |
| その他             | 111,047           | その他             | 226,572           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>702,856</b>    | <b>負債合計</b>     | <b>16,301,003</b> |
| のれん             | 519,877           | <b>(純資産の部)</b>  |                   |
| その他             | 182,978           | 株主資本            | 834,353           |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>975,831</b>    | 資本金             | 420,305           |
| 投資有価証券          | 63,947            | 資本剰余金           | 221,395           |
| 繰延税金資産          | 47,776            | 利益剰余金           | 398,836           |
| 長期貸付金           | 375,933           | 自己株式            | △206,183          |
| その他             | 489,221           | その他の包括利益累計額     | △588              |
| 貸倒引当金           | △1,047            | その他有価証券評価差額金    | △588              |
|                 |                   | 少数株主持分          | 27                |
| <b>資産合計</b>     | <b>17,134,796</b> | <b>純資産合計</b>    | <b>833,793</b>    |
|                 |                   | <b>負債・純資産合計</b> | <b>17,134,796</b> |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(平成26年7月1日から  
平成27年6月30日まで)

(単位：千円)

| 科 目            | 金       | 額          |
|----------------|---------|------------|
| 売上高            |         | 12,584,416 |
| 売上原価           |         | 9,527,963  |
| 売上総利益          |         | 3,056,453  |
| 販売費及び一般管理費     |         | 3,071,868  |
| 営業損失           |         | △15,415    |
| 営業外収益          |         |            |
| 受取利息           | 23,100  |            |
| 受取配当金          | 89      |            |
| 受取解約違約金        | 5,412   |            |
| 受取保険金          | 5,662   |            |
| 投資有価証券売却益      | 3,460   |            |
| 補助金収入          | 1,674   |            |
| その他            | 9,082   | 48,483     |
| 営業外費用          |         |            |
| 支払利息           | 208,491 |            |
| 駐車場設備除却損       | 5,640   |            |
| 支払手数料          | 20,106  |            |
| その他            | 24,181  | 258,419    |
| 経常損失           |         | △225,351   |
| 特別利益           |         |            |
| 固定資産売却益        | 1,236   | 1,236      |
| 特別損失           |         |            |
| 減損損失           | 53,245  |            |
| その他            | 405     | 53,650     |
| 税金等調整前当期純損失    |         | △277,765   |
| 法人税、住民税及び事業税   | 52,748  |            |
| 法人税等調整額        | △83,929 | △31,180    |
| 少数株主損益調整前当期純損失 |         | △246,585   |
| 少数株主損失         |         | 16         |
| 当期純損失          |         | △246,601   |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成26年7月1日から  
平成27年6月30日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本 |         |          |          |            |
|-------------------------|---------|---------|----------|----------|------------|
|                         | 資 本 金   | 資本剰余金   | 利益剰余金    | 自己株式     | 株主資本計<br>合 |
| 当 期 首 残 高               | 418,561 | 219,651 | 726,411  | △208,072 | 1,156,550  |
| 当 期 変 動 額               |         |         |          |          |            |
| 新 株 の 発 行               | 1,744   | 1,744   |          |          | 3,488      |
| 剰 余 金 の 配 当             |         |         | △80,973  |          | △80,973    |
| 当 期 純 損 失               |         |         | △246,601 |          | △246,601   |
| 自 己 株 式 の 処 分           |         |         |          | 1,889    | 1,889      |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |         |         |          |          |            |
| 当 期 変 動 額 合 計           | 1,744   | 1,744   | △327,575 | 1,889    | △322,197   |
| 当 期 末 残 高               | 420,305 | 221,395 | 398,836  | △206,183 | 834,353    |

|                         | その他の包括利益累計額      |                   | 少数株主持分 | 純資産合計     |
|-------------------------|------------------|-------------------|--------|-----------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | その他の包括利<br>益累計額合計 |        |           |
| 当 期 首 残 高               | △251             | △251              | 11     | 1,156,311 |
| 当 期 変 動 額               |                  |                   |        |           |
| 新 株 の 発 行               |                  |                   |        | 3,488     |
| 剰 余 金 の 配 当             |                  |                   |        | △80,973   |
| 当 期 純 損 失               |                  |                   |        | △246,601  |
| 自 己 株 式 の 処 分           |                  |                   |        | 1,889     |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | △337             | △337              | 16     | △320      |
| 当 期 変 動 額 合 計           | △337             | △337              | 16     | △322,518  |
| 当 期 末 残 高               | △588             | △588              | 27     | 833,793   |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### ① 連結子会社の状況

##### i. 連結子会社の数

10社

##### ii. 連結子会社の名称

トラストパーク株式会社

トラストネットワーク株式会社

株式会社グランシップ

トラストパトロール株式会社

トラストメディカルサポート株式会社

メディカルアライアンス合同会社

トラストビジョン株式会社

トラストアセットパートナーズ株式会社

株式会社ジーエートラスト

株式会社RVトラスト

上記のうち、株式会社ジーエートラストは、当連結会計年度に新たに設立したため、連結の範囲に含めております。株式会社RVトラストについては、当連結会計年度において、新たに全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

##### ② 非連結子会社の状況

該当事項はありません。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

#### (4) 会計処理基準に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### i. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ・ その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法



## ii. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ・ 販売用不動産 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。  
なお、保有する販売用不動産のうち販売するまでに賃貸用に供したものについては有形固定資産に準じて減価償却しております。
- ・ 仕掛販売用不動産 個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。
- ・ 商品及び製品 主として先入先出法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。
- ・ 原材料及び貯蔵品 総平均法

## ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

### i. 有形固定資産

（リース資産を除く）

建物（建物附属設備を除く）は定額法、それ以外は主として定率法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年の均等償却によっております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

|             |       |
|-------------|-------|
| 建物及び構築物     | 4～45年 |
| 機械装置及び運搬具   | 4～17年 |
| その他（工具器具備品） | 3～20年 |

### ii. 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

のれんの償却については、その投資効果の発現する期間を個別に見積り、20年以内の合理的な年数（5～12年）で定額法により償却しております。

### iii. リース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## ③ 重要な引当金の計上基準

### i. 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

- ii. ポイント引当金                      ポイントカードの使用により付与されたポイントの将来の使用に備えるため、当連結会計年度末における未使用ポイント残高に対する将来の費用負担見込額を計上しております。
- iii. 返品調整引当金                    連結会計年度末後に予想される売上返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案し、将来の返品に伴う損失予想額を計上しております。
- iv. 株式給付引当金                    株式付与規程に基づく当社グループの従業員への当社株式の交付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。
- ④ その他連結計算書類作成のための重要な事項
- i. 消費税等の会計処理                税抜方式によっております。  
なお、控除対象外消費税等は発生した連結会計年度の費用として処理しております。
- ii. 繰延資産の処理方法  
・ 創立費                                支出時に全額費用処理しております。
- iii. 退職給付に係る負債                当社及び連結子会社は退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- iv. 連結納税制度の適用  
当社及び連結子会社は、平成27年6月期より連結納税制度を適用することについて、国税庁長官の承認を受けました。そのため、当連結会計年度より「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その1）」（実務対応報告第5号 平成27年1月16日）及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その2）」（実務対応報告第7号 平成27年1月16日）に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っております。

(5) 会計方針の変更に関する注記

（従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱いの適用）

当連結会計年度より、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 平成27年3月26日）を適用しており、信託が保有する株式に対する当社からの配当金及び信託に関する諸費用の純額を資産又は負債に計上しております。なお、当該会計方針の変更による影響はありません。

また、従業員へ割当てられたポイントに対する引当金については、内容をより明瞭に表示するため「退職給付に係る負債」から「株式給付引当金」に表示科目を変更しております。

(6) 表示方法の変更に関する注記

① 連結貸借対照表

前連結会計年度において、流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「前受金」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より、区分掲記しております。

なお、前連結会計年度の「前受金」は361,182千円であります。

② 連結損益計算書

前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取保険金」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度により、区分掲記しております。

なお、前連結会計年度の「受取保険金」は446千円であります。

## 2. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

|              |               |             |
|--------------|---------------|-------------|
| ① 担保に供している資産 | 定期預金          | 66,676千円    |
|              | 仕掛販売用不動産      | 1,445,037千円 |
|              | 建物及び構築物       | 1,811,546千円 |
|              | 土地            | 1,915,136千円 |
|              | 建設仮勘定         | 488,562千円   |
|              | 計             | 5,726,959千円 |
| ② 担保に係る債務    | 短期借入金         | 986,154千円   |
|              | 1年内返済予定の長期借入金 | 888,110千円   |
|              | 長期借入金         | 4,172,527千円 |
|              | 計             | 6,046,791千円 |

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 1,500,525千円

(3) 保有目的の変更に伴い、固定資産として保有していた土地3,779,054千円、建物920,305千円を販売用不動産に振替えております。

## 3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首  | 増       | 加 | 減 | 少  | 当連結会計年度末   |
|-------|------------|---------|---|---|----|------------|
| 普通株式  | 5,160,000株 | 17,500株 |   |   | 一株 | 5,177,500株 |

(注) 普通株式の発行済株式の増加は、ストック・オプションの行使による新株の発行による増加であります。

## (2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 | 増 | 加  | 減 | 少      | 当連結会計年度末 |
|-------|-----------|---|----|---|--------|----------|
| 普通株式  | 432,085株  |   | 一株 |   | 5,900株 | 426,185株 |

- (注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の減少は従業員退職により、株式付与E S O P信託口から従業員への株式交付によるものであります。
2. 普通株式の自己株式の株式数には、株式付与E S O P信託が保有する当社株式（当連結会計年度期首207,000株、当連結会計年度末201,100株）が含まれております。

## (3) 剰余金の配当に関する事項

## ① 配当金支払額

| 決議                             | 株式の種類 | 配当金の総額   | 1株当たり配当額 | 基準日         | 効力発生日      |
|--------------------------------|-------|----------|----------|-------------|------------|
| 平成26年9月25日<br>定時株主総会<br>(注) 1. | 普通株式  | 40,466千円 | 8.2円     | 平成26年6月30日  | 平成26年9月26日 |
| 平成27年2月10日<br>取締役会<br>(注) 2.   | 普通株式  | 40,507千円 | 8.2円     | 平成26年12月31日 | 平成27年2月27日 |

- (注) 1. 平成26年9月25日定時株主総会決議に基づく配当金の総額には、株式付与E S O P信託が保有する株式に対する配当金1,697千円を含めております。
2. 平成27年2月10日取締役会決議に基づく配当金の総額には、株式付与E S O P信託が保有する株式に対する配当金1,657千円を含めております。

## ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成27年9月29日開催予定の定時株主総会において、次の議案を付議いたします。

| 株式の種類 | 配当金の総額   | 配当金の原資 | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|-------|----------|--------|----------|------------|------------|
| 普通株式  | 40,609千円 | 利益剰余金  | 8.2円     | 平成27年6月30日 | 平成27年9月30日 |

- (注) 定時株主総会決議に基づく配当金の総額には、株式付与E S O P信託が保有する株式に対する配当金1,649千円を含めております。

## (4) 当連結会計年度の末日における新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数

普通株式 56,000株

#### 4. 金融商品に関する注記

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

###### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産で行い、資金調達については主に銀行借入により調達しております。また、デリバティブ取引については行っておらず、投機的な取引は行わない方針であります。

###### ② 金融商品の内容及びそのリスク並びにそのリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、顧客の信用状況を定期的に把握するとともに、債権残高を随時把握することを通じてリスクの軽減を図っております。

投資有価証券は、主に株式、債券であります。これらは、金利変動リスク及び市場価格変動リスクに晒されております。当該リスクについては、定期的に時価を把握することで、リスクの軽減を図っております。

敷金及び保証金は、当社グループの駐車場事業に係る事業所の賃貸借契約に係るものであり、取引先企業等の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、管理部が主要な取引先の状況を適宜にモニタリングし、リスクの軽減を図っております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

借入金の用途は、運転資金（主として短期借入金）及び設備投資資金（長期借入金）であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されております。また、当該資金調達に係る流動性リスクに関しては、管理部が定期的に資金計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

ファイナンス・リースに係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金調達を目的としたリース契約によるものであり、全契約とも固定金利による契約であります。

###### ③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成27年6月30日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注)2. 参照）。

(単位：千円)

|                | 連結貸借対照表計上額 | 時価         | 差額      |
|----------------|------------|------------|---------|
| (1) 現金及び預金     | 1,689,376  | 1,689,376  | —       |
| (2) 受取手形及び売掛金  | 464,370    |            |         |
| 貸倒引当金 (*1)     | △7,435     |            |         |
|                | 456,935    | 456,935    | —       |
| (3) 投資有価証券     | 59,827     | 59,827     | —       |
| (4) 敷金及び保証金    | 397,523    | 375,870    | △21,653 |
| 資産計            | 2,603,662  | 2,582,009  | △21,653 |
| (1) 買掛金        | 677,390    | 677,390    | —       |
| (2) 短期借入金      | 6,667,000  | 6,667,000  | —       |
| (3) 長期借入金 (*2) | 5,566,297  | 5,574,962  | 8,665   |
| (4) リース債務 (*3) | 583,942    | 581,478    | △2,464  |
| 負債計            | 13,494,630 | 13,500,831 | 6,201   |

(\*1) 受取手形及び売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

(\*2) 1年内返済予定の長期借入金については、長期借入金に含めております。

(\*3) 流動負債及び固定負債に計上されているリース債務の合計であります。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は金融機関等から提示された価格によっております。

(4) 敷金及び保証金

これらの時価は、将来キャッシュ・フローを期末から返還までの見積り期間に基づき、国債の利回りに信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## 負債

### (1) 買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### (3) 長期借入金、(4) リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を同様の新規借入又は新規リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

### 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

| 区分    | 連結貸借対照表計上額 |
|-------|------------|
| 非上場株式 | 4,120      |

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

## 5. 賃貸等不動産に関する注記

### (1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

一部の連結子会社では、福岡県その他の地域において、賃貸駐車場等を有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は209,225千円（賃貸収益は主に売上高に、賃貸費用は主に売上原価に計上）であります。

### (2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

(単位：千円)

| 連結貸借対照表計上額  |            |            | 当連結会計年度末の時価 |
|-------------|------------|------------|-------------|
| 当連結会計年度期首残高 | 当連結会計年度増減額 | 当連結会計年度末残高 |             |
| 4,502,091   | △2,690,290 | 1,811,800  | 1,737,750   |

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度増減額のうち、主な増加額は不動産取得2,059,386千円であり、主な減少額は不動産特定共同事業による販売用不動産への所有区分の変更4,699,359千円及び減価償却費51,305千円であります。

3. 当連結会計年度末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）によっております。

4. 開発中物件は、開発の途中段階であることから、時価を把握することが極めて困難であるため、上表には含めておりません。なお、開発中物件の当連結会計年度の連結貸借対照表計上額は、871,052千円であります。

6. 1株当たり情報に関する注記

|                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 175円48銭 |
| (2) 1株当たり当期純損失 | 52円08銭  |

7. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

8. その他の注記

該当事項はありません。



# 貸借対照表

(平成27年6月30日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額              | 科 目             | 金 額              |
|-----------------|------------------|-----------------|------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                  | <b>(負債の部)</b>   |                  |
| <b>流動資産</b>     | <b>1,646,222</b> | <b>流動負債</b>     | <b>2,693,431</b> |
| 現金及び預金          | 471,492          | 短期借入金           | 2,647,014        |
| 前払費用            | 13,587           | 1年内返済予定の長期借入金   | 17,484           |
| 繰延税金資産          | 5,821            | リース債務           | 960              |
| 短期貸付金           | 1,097,047        | 未払金             | 15,760           |
| その他             | 58,273           | 未払費用            | 6,519            |
| <b>固定資産</b>     | <b>2,336,392</b> | 未払法人税等          | 903              |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>47,515</b>    | 預り金             | 3,018            |
| 建物              | 7,939            | その他             | 1,771            |
| 工具、器具及び備品       | 10,016           | <b>固定負債</b>     | <b>114,500</b>   |
| 土地              | 25,871           | 長期借入金           | 103,806          |
| リース資産           | 3,688            | リース債務           | 3,068            |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>2,650</b>     | 株式給付引当金         | 192              |
| ソフトウェア          | 2,650            | 退職給付引当金         | 1,239            |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>2,286,227</b> | その他             | 6,195            |
| 投資有価証券          | 9,733            | <b>負債合計</b>     | <b>2,807,932</b> |
| 関係会社株式          | 1,171,704        | <b>(純資産の部)</b>  |                  |
| 長期貸付金           | 1,135,007        | <b>株主資本</b>     | <b>1,174,940</b> |
| 繰延税金資産          | 484              | 資本金             | 420,305          |
| その他             | 1,297            | 資本剰余金           | 544,559          |
| 貸倒引当金           | △32,000          | 資本準備金           | 106,744          |
| <b>資産合計</b>     | <b>3,982,614</b> | その他資本剰余金        | 437,815          |
|                 |                  | <b>利益剰余金</b>    | <b>274,509</b>   |
|                 |                  | その他利益剰余金        | 274,509          |
|                 |                  | 繰越利益剰余金         | 274,509          |
|                 |                  | <b>自己株式</b>     | <b>△64,433</b>   |
|                 |                  | 評価・換算差額等        | △258             |
|                 |                  | その他有価証券評価差額金    | △258             |
|                 |                  | <b>純資産合計</b>    | <b>1,174,681</b> |
|                 |                  | <b>負債・純資産合計</b> | <b>3,982,614</b> |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(平成26年7月1日から  
平成27年6月30日まで)

(単位：千円)

| 科 目             | 金      | 額       |
|-----------------|--------|---------|
| 営 業 収 益         |        | 425,940 |
| 販売費及び一般管理費      |        | 280,984 |
| 営 業 利 益         |        | 144,955 |
| 営 業 外 収 益       |        |         |
| 受 取 利 息         | 8,221  |         |
| そ の 他           | 220    | 8,441   |
| 営 業 外 費 用       |        |         |
| 支 払 利 息         | 7,712  |         |
| 関係会社貸倒引当金繰入額    | 12,000 |         |
| そ の 他           | 0      | 19,712  |
| 経 常 利 益         |        | 133,684 |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 |        | 133,684 |
| 法人税、住民税及び事業税    | △6,030 |         |
| 法人税等調整額         | △4,903 | △10,933 |
| 当 期 純 利 益       |        | 144,618 |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 株主資本等変動計算書

(平成26年7月1日から  
平成27年6月30日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本 |                       |                                 |                                 |                                                                    |                                 |         | 株主資本合<br>計 |
|-------------------------|---------|-----------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------|---------|------------|
|                         | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金             |                                 |                                 | 利 益 剰 余 金                                                          |                                 | 自己株式    |            |
|                         |         | 資<br>本<br>準<br>備<br>金 | そ<br>他<br>資<br>本<br>剰<br>余<br>金 | 資<br>本<br>剰<br>余<br>金<br>合<br>計 | そ<br>他<br>利<br>益<br>剰<br>余<br>金<br>繰<br>越<br>利<br>益<br>剰<br>余<br>金 | 利<br>益<br>剰<br>余<br>金<br>合<br>計 |         |            |
| 当 期 首 残 高               | 418,561 | 105,000               | 437,815                         | 542,815                         | 214,554                                                            | 214,554                         | △66,322 | 1,109,607  |
| 当 期 変 動 額               |         |                       |                                 |                                 |                                                                    |                                 |         |            |
| 新 株 の 発 行               | 1,744   | 1,744                 |                                 | 1,744                           |                                                                    |                                 |         | 3,488      |
| 剰 余 金 の 配 当             |         |                       |                                 |                                 | △84,663                                                            | △84,663                         |         | △84,663    |
| 当 期 純 利 益               |         |                       |                                 |                                 | 144,618                                                            | 144,618                         |         | 144,618    |
| 自 己 株 式 の 処 分           |         |                       |                                 |                                 |                                                                    |                                 | 1,889   | 1,889      |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額(純額) |         |                       |                                 |                                 |                                                                    |                                 |         |            |
| 当 期 変 動 額 合 計           | 1,744   | 1,744                 | —                               | 1,744                           | 59,955                                                             | 59,955                          | 1,889   | 65,332     |
| 当 期 末 残 高               | 420,305 | 106,744               | 437,815                         | 544,559                         | 274,509                                                            | 274,509                         | △64,433 | 1,174,940  |

|                         | 評 価 ・ 換 算 差 額 等                                          |                                                | 純資産合計     |
|-------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------|
|                         | そ<br>の<br>他<br>有<br>価<br>証<br>券<br>評<br>価<br>差<br>額<br>金 | 評<br>価<br>・<br>換<br>算<br>差<br>額<br>等<br>合<br>計 |           |
| 当 期 首 残 高               | —                                                        | —                                              | 1,109,607 |
| 当 期 変 動 額               |                                                          |                                                |           |
| 新 株 の 発 行               |                                                          |                                                | 3,488     |
| 剰 余 金 の 配 当             |                                                          |                                                | △84,663   |
| 当 期 純 利 益               |                                                          |                                                | 144,618   |
| 自 己 株 式 の 処 分           |                                                          |                                                | 1,889     |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額(純額) | △258                                                     | △258                                           | △258      |
| 当 期 変 動 額 合 計           | △258                                                     | △258                                           | 65,074    |
| 当 期 末 残 高               | △258                                                     | △258                                           | 1,174,681 |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産

（リース資産を除く）

建物は定額法、それ以外は主として定率法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却によっております。

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 4年

工具、器具及び備品 3～8年

##### ② 無形固定資産

（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

##### ③ リース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (3) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

##### ③ 株式給付引当金

株式付与規程に基づく当社従業員への当社株式の交付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

① 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

なお、控除対象外消費税等は発生した事業年度の費用として処理しております。

② 連結納税制度の適用

当社は、平成27年6月期より連結納税制度を適用することについて、国税庁長官の承認を受けました。そのため、当事業年度より「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その1)」(実務対応報告第5号 平成27年1月16日)及び「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い(その2)」(実務対応報告第7号 平成27年1月16日)に基づき、連結納税制度の適用を前提とした会計処理を行っております。

(5) 会計方針の変更に関する注記

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱いの適用)

当事業年度より、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)を適用しており、信託が保有する株式に対する当社からの配当金及び信託に関する諸費用の純額を資産又は負債に計上しております。なお、当該会計方針の変更による影響はありません。

また、従業員へ割当てられたポイントに対する引当金については、内容をより明瞭に表示するため「退職給付引当金」から「株式給付引当金」に表示科目を変更しております。

## 2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 2,275千円

(2) 関係会社に対する金銭債権・債務

|        |             |
|--------|-------------|
| 短期金銭債権 | 1,097,047千円 |
| 長期金銭債権 | 1,135,007千円 |
| 短期金銭債務 | 47,014千円    |

(3) 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

|         |             |
|---------|-------------|
| 当座貸越極度額 | 2,600,000千円 |
| 借入実行残高  | 2,600,000千円 |
| 差引残高    | －千円         |

#### (4) 保証債務

当社は、次の会社について下記内容の債務保証を行っております。

(単位：千円)

| 会 社 名          | 内 容             | 金 額       |
|----------------|-----------------|-----------|
| トラストネットワーク㈱    | 金融機関からの借入金      | 1,911,126 |
|                | リース契約 (未経過リース料) | 92,442    |
|                | 工事請負契約          | 473,739   |
|                | 分譲マンションの手付金等    | 36,500    |
| トラストパトロール㈱     | リース契約 (未経過リース料) | 7,694     |
| トラストメディカルサポート㈱ | 金融機関からの借入金      | 1,723,850 |
|                | リース契約 (未経過リース料) | 7,846     |
| ㈱R Vトラスト       | 金融機関からの借入金      | 40,000    |

### 3. 損益計算書に関する注記

#### (1) 関係会社との取引高

営業取引による取引高

経営指導料

224,340千円

受取配当金

201,600千円

営業取引以外の取引額

受取利息

8,195千円

支払利息

909千円

#### (2) 関係会社貸倒引当金繰入額

関係会社貸倒引当金繰入額は、子会社への長期貸付金について貸倒引当金を計上したものであります。

### 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

| 株 式 の 種 類 | 当事業年度期首  | 増 | 加 | 減 | 少      | 当事業年度末   |
|-----------|----------|---|---|---|--------|----------|
| 普 通 株 式   | 207,085株 |   | - |   | 5,900株 | 201,185株 |

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の減少は従業員退職により、株式付与E S O P信託口から従業員への株式交付によるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数には、株式付与E S O P信託が保有する当社株式(当事業年度期首207,000株、当事業年度末201,100株)が含まれております。

## 5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

### 繰延税金資産

|                    |           |
|--------------------|-----------|
| 繰越欠損金              | 4,925千円   |
| 現物配当に伴う関係会社株式簿価調整額 | 28,320千円  |
| 貸倒引当金損金算入限度超過額     | 11,328千円  |
| 未払賞与損金不算入額         | 807千円     |
| その他                | 573千円     |
| 繰延税金資産小計           | 45,953千円  |
| 評価性引当額             | △39,648千円 |
| 繰延税金資産合計           | 6,305千円   |

## 6. 関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

(単位：千円)

| 種 類 | 会 社 等 の 名 称        | 議 決 権 等<br>の 所 有<br>(被所有)割合 | 関 連 当 事 者<br>と の 関 係            | 取 引 の 内 容                                                                               | 取 引 金 額                                                                            | 科 目                                               | 期 末 残 高                                                |
|-----|--------------------|-----------------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 子会社 | トラストパーク㈱           | 所有<br>直接 100%               | 役務の提供<br>資金の援助<br>役員の兼任         | 経営指導料<br>資金の貸付<br>利息の受取<br>配当金の受取                                                       | 84,000<br>800,000<br>2,890<br>51,600                                               | －<br>短期貸付金<br>－<br>－                              | －<br>800,000<br>－<br>－                                 |
| 子会社 | トラストネット<br>ワーク㈱    | 所有<br>直接 100%               | 役務の提供<br>資金の援助<br>役員の兼任<br>債務保証 | 経営指導料<br>資金の貸付<br>資金の回収<br>利息の受取<br>配当金の受取<br>銀行借入に対する保証<br>リース契約に対する保証<br>工事請負契約に対する保証 | 127,200<br>740,000<br>80,000<br>3,512<br>150,000<br>1,911,126<br>92,442<br>473,739 | －<br>短期貸付金<br>長期貸付金<br>－<br>－<br>－<br>－<br>－<br>－ | －<br>60,000<br>1,000,000<br>－<br>－<br>－<br>－<br>－<br>－ |
| 子会社 | トラストメディカル<br>サポート㈱ | 所有<br>直接 100%               | 資金の援助<br>役員の兼任<br>債務保証          | 資金の貸付<br>資金の回収<br>利息の受取<br>銀行借入に対する保証                                                   | 108,192<br>96,692<br>1,019<br>1,723,850                                            | 短期貸付金<br>長期貸付金<br>－<br>－                          | 60,000<br>90,000<br>－<br>－                             |
| 子会社 | ㈱ジーエートラスト          | 所有<br>直接 100%               | CMSの運用<br>役員の兼任                 | 資金の借入                                                                                   | －                                                                                  | 短期借入金                                             | 42,368                                                 |
| 子会社 | ㈱RVトラスト            | 所有<br>直接 100%               | 資金の援助<br>役員の兼任<br>債務保証          | 資金の貸付<br>利息の受取<br>銀行借入に対する保証                                                            | 166,393<br>152<br>40,000                                                           | 短期貸付金<br>－<br>－                                   | 166,393<br>－<br>－                                      |

(注) 上記取引金額並びに期末残高には消費税等を含んでおりません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

1. 経営指導料については、双方協議により合理的に決定しております。
2. 当社は、グループの残余資金の効率的な資金運用を行うためCMS（キャッシュマネジメントシステム）を導入しております。CMSによる資金の貸付及び借入については、随時変動するため取引金額には含めておりません。なお、金利については市場金利を勘案して決定しております。
3. 資金の貸付及び借入については、金融機関との利率を勘案して決定しております。なお、担保は受け入れ及び差し入れはしていません。
4. 債務保証については、保証料の受領はありません。取引金額は期末時点での債務保証残高を記載しており、消費税等が含まれております。



7. 1株当たり情報に関する注記

|                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 236円05銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 29円15銭  |

8. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

9. その他の注記

該当事項はありません。

## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

平成27年8月24日

トラストホールディングス株式会社  
取締役会 御中

三 優 監 査 法 人

代 表 社 員 公 認 会 計 士 吉 川 秀 嗣 ㊤

業 務 執 行 社 員

業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 大 神 匡 ㊤

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、トラストホールディングス株式会社の平成26年7月1日から平成27年6月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、トラストホールディングス株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

平成27年8月24日

トラストホールディングス株式会社  
取締役会 御中

三 優 監 査 法 人

代 表 社 員 公 認 会 計 士 吉 川 秀 嗣 ㊤  
業 務 執 行 社 員

業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 大 神 匡 ㊤

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、トラストホールディングス株式会社の平成26年7月1日から平成27年6月30日までの第2期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成26年7月1日から平成27年6月30日までの第2期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他の重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役及び使用人等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

#### 2. 監査の結果

##### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

##### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

##### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成27年8月31日

|                  |         |
|------------------|---------|
| トラストホールディングス株式会社 | 監査役会    |
| 常勤監査役（社外監査役）     | 市原 一也 ㊟ |
| 監査役（社外監査役）       | 江口 秀人 ㊟ |
| 監査役（社外監査役）       | 梁井 純輔 ㊟ |

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金の処分の件

#### 期末配当に関する事項

当期の期末配当につきましては、企業体質の強化及び事業成長のための内部留保の充実と株主の皆様への利益還元を両立すべく、以下のとおりとさせていただきます。

#### (1) 配当財産の種類

金銭

#### (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき8.2円、総額42,454,803円

なお、中間配当金として1株につき8.2円をお支払しておりますので、年間配当金は1株につき16.4円となります。

#### (3) 剰余金の配当が効力を生じる日

平成27年9月30日

## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 提案の理由

「会社法の一部を改正する法律」（平成26年法律第90号）が平成27年5月1日に施行されたことにより、責任限定契約を締結できる取締役及び監査役の範囲が変更されることから、当社定款第32条第2項及び第43条第2項の一部を変更するものであります。なお、現行定款第32条第2項の変更に関しましては、各監査役の同意を得ております。

その他、会社設立時に設けた附則第1条から第3条を削除するものであります。

### 2. 変更の内容

変更の内容は次のとおりであります。

（下線は変更部分を示します。）

| 現行定款                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 変更案                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（取締役の責任免除）<br/>第32条 （条文省略）</p> <p>2 当会社は、会社法第427条第1項の規定により、<u>社外取締役</u>との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任に関し、法令が規定する額を限度とする契約を締結することができる。</p> <p>（監査役 of 責任免除）<br/>第43条 （条文省略）</p> <p>2 当会社は、会社法第427条第1項の規定により、<u>社外監査役</u>との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任に関し、法令が規定する額を限度とする契約を締結することができる。</p> <p style="text-align: center;"><u>附 則</u></p> <p><u>第1条～第3条（条文省略）</u></p> | <p>（取締役の責任免除）<br/>第32条 （現行どおり）</p> <p>2 当会社は、会社法第427条第1項の規定により、<u>取締役（業務執行取締役等である者を除く。）</u>との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任に関し、法令が規定する額を限度とする契約を締結することができる。</p> <p>（監査役 of 責任免除）<br/>第43条 （現行どおり）</p> <p>2 当会社は、会社法第427条第1項の規定により、<u>監査役</u>との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任に関し、法令が規定する額を限度とする契約を締結することができる。</p> <p style="text-align: center;">（ 削 除 ）</p> |

### 第3号議案 取締役5名選任の件

取締役全員（4名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、経営強化のため、新たに取締役に1名増員し、取締役5名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                          | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 所有する当社の株式数 |
|-------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | わた なべ やす し<br>渡 邊 靖 司<br>(昭和34年8月4日生) | 平成5年8月 有限会社ピー・エム・トラスト設立<br>(現、トラストパーク株式会社) 代表取締役就任<br>平成19年2月 トラストネットワーク株式会社 代表取締役就任<br>平成22年9月 株式会社グランシップ 代表取締役就任<br>平成23年5月 タウンパトロール株式会社設立(現、トラストパトロール株式会社)代表取締役就任(現任)<br>平成25年7月 当社 代表取締役就任<br>平成25年11月 トラストメディカルサポート株式会社設立 代表取締役就任(現任)<br>平成25年12月 有限会社SRP(現、トラストビジョン株式会社) 代表取締役就任(現任)<br>平成26年5月 トラストアセットパートナーズ株式会社設立 代表取締役就任<br>平成26年7月 当社 代表取締役会長就任(現任)<br>トラストパーク株式会社 代表取締役会長就任(現任)<br>トラストネットワーク株式会社 代表取締役会長就任(現任)<br>株式会社ジーエートラスト設立 代表取締役就任<br>平成27年4月 株式会社RVトラスト 代表取締役就任(現任)<br>平成27年7月 株式会社グランシップ 代表取締役会長就任(現任)<br>トラストアセットパートナーズ株式会社 代表取締役会長就任(現任)<br>株式会社ジーエートラスト 代表取締役会長就任(現任) | 516,000株   |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)            | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する当社の株式数 |
|-------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 2     | 喜久田 匡宏<br>(昭和40年4月16日生) | 平成21年9月 トラストパーク株式会社 監査役就任<br>平成24年9月 同社 取締役就任<br>平成25年7月 当社 取締役就任<br>平成25年11月 トラストメディカルサポート株式会社 取締役就任(現任)<br>平成25年12月 当社 取締役副社長就任<br>平成26年2月 株式会社SRP(現、トラストビジョン株式会社) 取締役就任(現任)<br>平成26年5月 トラストアセットパートナーズ株式会社 取締役就任<br>平成26年7月 当社 代表取締役社長就任(現任)                                                                                                       | 20,000株    |
| 3     | 矢羽田 弘<br>(昭和35年5月25日生)  | 平成12年1月 株式会社ピー・エム・トラスト(現、トラストパーク株式会社) 入社<br>平成14年9月 同社 取締役就任<br>平成16年1月 同社 常務取締役就任<br>平成25年7月 当社 取締役就任 管理部長<br>平成25年9月 トラストネットワーク株式会社 取締役就任(現任)<br>平成25年11月 トラストメディカルサポート株式会社 取締役就任(現任)<br>平成26年2月 株式会社SRP(現、トラストビジョン株式会社) 取締役就任(現任)<br>平成26年5月 トラストアセットパートナーズ株式会社 取締役就任<br>平成26年7月 当社 専務取締役就任(現任)<br>株式会社ジーエートラスト 取締役就任<br>平成27年7月 同社 代表取締役社長就任(現任) | 50,000株    |
| 4     | 宮石 啓司<br>(昭和43年2月20日生)  | 平成25年2月 トラストパーク株式会社 入社<br>平成25年7月 当社へ転籍 I R室室長<br>平成26年1月 当社 グループ経営企画部部长兼 I R室室長<br>平成26年7月 当社 経営企画部部长<br>トラストパーク株式会社 取締役就任<br>平成26年9月 当社 取締役就任 経営企画部部长(現任)<br>平成27年6月 株式会社RVトラスト 取締役就任(現任)                                                                                                                                                          | 5,200株     |



| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                       | 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況                                                                                                                                                        | 所有する当社の株式数 |
|-------|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ※5    | きのした としゆき<br>木下敏之<br>(昭和35年2月12日生) | 昭和59年4月 農林水産省 入省<br>平成11年3月 佐賀市長 就任<br>平成17年12月 木下敏之行政経営研究所設立 所長就任(現任)<br>平成18年10月 公益財団法人東京財団 上席研究員就任<br>平成19年2月 株式会社e-CORPORATION. JP 取締役就任<br>平成24年4月 福岡大学 経済学部教授就任(現任) | 一株         |

- (注) 1. ※印は、新任の取締役候補者であります。
2. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
3. 社外取締役候補者に関する特記事項
- ① 木下敏之氏は、社外取締役候補者であります。
  - ② 木下敏之氏を社外取締役候補者とした理由は、過去に農林水産省、佐賀市長としての行政経験や取締役としての経験など、豊富な経験及び幅広い見識を有しておられ、当社の経営陣から独立した判断を下すことができるものと判断したためであります。
  - ③ 当社は、木下敏之氏が社外取締役に就任された場合は、責任限定契約を締結する予定であります。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額であります。

以 上



メ モ

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

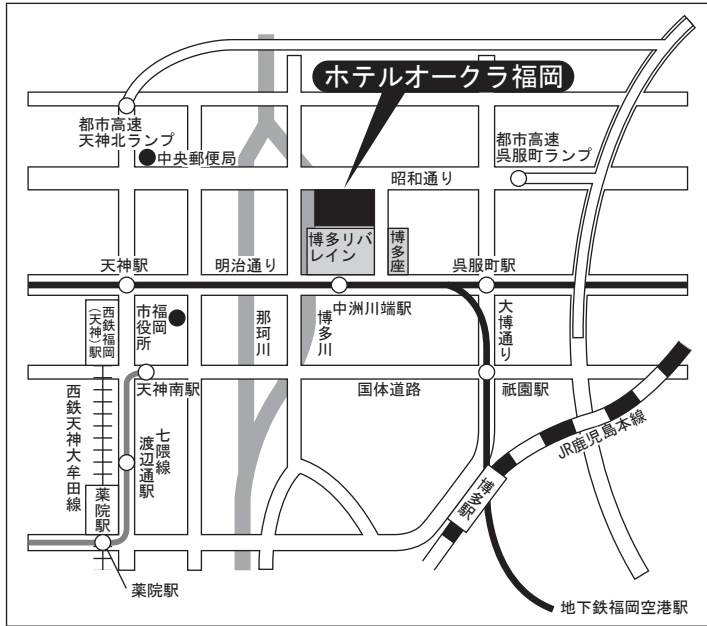
-----

-----

-----

# 株主総会会場ご案内図

福岡市博多区下川端町3番2号  
ホテルオークラ福岡 3階 「メイフェア」  
TEL (092) 262-1111



## <交通手段>

### JR博多駅から

地下鉄 博多駅—中洲川端駅「姪浜方面行き」  
(所要時間 約5分)

タクシー 所要時間 約10分

### 福岡空港から

地下鉄 福岡空港駅—中洲川端駅「姪浜方面行き」  
(所要時間 約10分)

タクシー 所要時間 約20分

### 西鉄福岡(天神)駅から

徒歩 約15分